

Service News サービス・ニュース

(調べ方案内)
パスファインダーが追加されました

新しく追加されたパスファインダーは以下の8テーマです。調べたい情報のテーマに合わせてお選びください。

- 日比谷公園について調べる
- 判例を調べる
- 浮世絵の作者を調べる
- 会社情報を調べる
- 都内にあるアート関連の教育機関を調べる
- アートに関する行政支援情報を調べる
- 生物多様性について調べる
- 建築について調べる

パスファインダーとは ある特定のテーマについて調べるときに役立つ資料やツールを紹介した「情報探索の道しるべ」です。

- ◆ 設置場所: 2F ホール ※これまでのものは館内の検索機械にあります
- ◆ ホームページからもダウンロードできます
日比谷図書文化館HP▶図書フロア▶調べ方のご案内
<http://hibiyal.jp/hibiya/pathfinder.html>

日比谷カレッジ報告
図書館建築を読む(全4回講座)
第1回「光の構想設計」
講師: 桂英史(東京藝術大学大学院教授)

読書という行為にとって物理的に不可欠なものである一方、「明晰さ」など知の象徴でもある「光」。光の表現が時代精神とどう結びつき、建築上どのように演出されてきたかについて、図書館建築の事例だけでなく、哲学や絵画など多岐にわたる見識を交えながら解説されました。先生のユーモア溢れる語り口に、楽しみながら学べる機会となりました。

活発な質疑応答が交わされました。

5/27

わたしの一冊
当館スタッフの推薦本を紹介します。図書フロア 目黒 裕季

「昭和の劇 映画脚本家笠原和夫」
笠原和夫 桂秀実 荒井晴彦 著

毎日映画ばかり見ていた頃に読み、強烈に影響を受けた。驚くのは笠原和夫の膨大な知識量と知見である。本書にはたびたび日本近代史の有名事件が登場するが、笠原は徹底的な取材によって二・二六事件の内幕に到達してしまふ。「仁義なき戦い」の映画化許諾を得るため、菅原文太が演じた極道の元に単身乗り込む件などスリリングだ。日本映画史上最大の脚本家の半生はひたすら面白く、タメになる。

太田出版 / 2002年
『仁義なき戦い』の脚本家、笠原和夫が半生を語ったインタビュー。映画だけでなく歴史、政治についても卓抜な知見を示す。

ZONE PICK UP! 2F パープルゾーン
【江戸・東京】の本を集めたゾーン

~9/18
徳川家康 四百年忌

徳川幕府瓦解のおり、旧家臣の数は約三万人に上ったといわれています。彼らの中には、明治政府に仕えることをせず、四谷や神田界隈で、汁粉や骨董品の露店を出して商いをしていた者もいるといえます。激動の近代を生き抜いた旧幕臣の方々へ敬愛の念を込めて、徳川家康400年忌にちなんだ展示を行っています。

3Fホール ガラスケース
◀「幕末風俗浮世絵集」、「万延元年遣米使節図録」など特別研究室所蔵の貴重な資料を展示中。

~7/18
3Fホール アート情報支援コーナー関連展示 「展覧会カタログの魅力」

リニューアルしたアート情報支援コーナーでは設置時より展覧会カタログを収集しています。そこに光をあて、美術館、分野、年代別などに括り、ピックアップしたカタログを並べました。展覧会が終了し見逃してしまったカタログやお気に入りの作家など、華やかで魅力的な世界をお楽しみください。

▲図書フロアスタッフおすすめカタログもあります!

7月の展示情報 ※展示内容は変更する場合がございます。

- 2Fホール 「千代田区生きものさがし 2015」
日比谷カレッジ「フォトグラファーが捉えた祭典への軌跡」関連展示(7/20~8/17) **NEW!**
- 3Fグリーンゾーン 「私とはなんだろう -アイデンティティ-」(~10/16) **NEW!**
「自分とは何か」をテーマに様々な視点からアイデンティティにまつわる本を紹介しています。実は一番知らないかもしれない自分を、本を通してみつめてみませんか。
- 3Fホール 「新選 名著複製全集」
「複製ではなく、複製。」 **NEW!**
- 3Fブルーゾーン 「時」(~8/14)
身近にありながら考えれば考えるほど謎が深まる時間について、様々な観点から幅広く紹介します。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌



▲写真(上) 集団疎開図譜「朝の動行」(下) 集団疎開図譜「動物飼育」(服部嘉夫氏所蔵)

平成27年度 文化財企画展〈予告〉

学童疎開からみる子どもたちの生活

会期 平成27年7月21日(火)~8月9日(日) ■会場: 1階 特別展示室
展示室開室時間: 月~金: 10:00~20:00、土: 10:00~19:00、日・祝: 10:00~17:00
問合せ先: 日比谷図書文化館 文化財事務局 03-3502-3348

- 展示内容
- I 「写真週報」にみる戦時下の生活
 - 1) 日米開戦
 - 2) 戦争激化のなかの日常生活
 - II 学童疎開の様子
 - 1) 集団疎開はじまる
 - 2) 学童集団疎開の生活
 - 3) 疎開日記
 - III 平和の世の到来
 - 1) 占領下の東京
 - 2) 神田復興祭

今から70年以上前、日本が戦争をしていた時代に、国民学校の子どもたちが体験した学童疎開を取り上げます。戦争が激化し、日本への空襲が始まると、子どもたちを都市から郊外へ避難させる計画が立てられました。最初は、親類などを頼った縁故疎開が行なわれますが、なかなか進まず、特定の地域を割り当て集団的に疎開をさせる方針が取られました。

そして、現在の小学校3年生~6年生にあたる子どもたちが集団疎開の対象となり、千代田区の場合は、麴町地区は山梨県に、神田地区は埼玉県に、地域が割り当てられました。この展示では、家族と別れての生活、子どもたちだけの集団生活を送らなければならなかった様子などを、写真・絵画・手紙などで紹介します。

戦後70年企画 日比谷カレッジ講座

8/20(木)
「戦後70年」の原風景を捉え直す -占領下の映像資料から
講師: 出口 雄一 (桐蔭横浜大学法学部教授)

「戦後」のあり方が大きく問われている今、日本国憲法を踏まえて、国会・内閣・裁判所等の「国のあり方」の骨組みがどのように作られたのか、改めて知っておくことはとても重要です。本講座では、占領下で撮影された貴重な映像資料を交え、現在の歴史研究のエッセンスをわかりやすくお伝えします。

日時: 8月20日(木曜日) 19:00~20:30(18:30より受付)
会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
定員: 200名 ■参加費: 1000円
参加申込: 電話(03-3502-3340) またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。

calendar 開館時間: 平日10時~22時 ■土曜10時~19時 ■日祝10時~17時 ■休館日

2015年 7月							2015年 8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
							30	31					

お問合せ先: 千代田区立日比谷図書文化館
〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL: 施設代表 03-3502-3340
図書総合カウンター 03-3502-3343 URL: <http://hibiyal.jp>



7・8月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。

千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

7/1 江戸歴史講座 第32回 徳川家康没後400年記念 江戸城と江戸のまちづくり

講師: 波多野 純(日本工業大学学長)

江戸は、天正18年(1590)の徳川家康関東入国から大きく発展し、18世紀には世界一の大都市となった。江戸城そして江戸のまちづくりを、それを担った人々に焦点をあて、絵画・復原模型・図面などから読み解く。



- 日時: 7月1日(水) 19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 200名
- 参加費: 1000円(千代田区民500円)

7/2 たくましい伝統 —インテリアデザインにおける革新事例とこれからのビジョン

講師: 立川 裕大(株式会社t.c.k.w代表取締役、伝統技術ディレクター・プランナー)

日本各地の伝統技術の活動領域を、最新のインテリアデザインの世界に拡張した純国産プロジェクト「ubushina」を手掛ける立川氏。CLASKA、パレスホテル、ペニンシュラ、スカイツリーなどで実績を残す講師の10年余りの足跡をたどりながら、多角的な要素を踏まえたこれからの伝統技術のビジョンを語ります。



- 日時: 7月2日(木) 19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場: 4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員: 60名 ■ 参加費: 1000円

7/4 ピースピレッジ第33回 「マインドフルリーダーシップ ~マインドフルネスによるリーダー、組織の変容」

講師: 荻野 淳也(一般社団法人マインドフルリーダーシップインスティテュート代表理事)

Google、Intelといった世界の最先端をリードする企業の人材開発に応用されている瞑想を活用したトレーニング手法「マインドフルネス」。なぜ、いま世界的に注目をされているのか、なぜリーダー、組織に必要なのか。マインドフルネスを持つリーダー、組織の変容の可能性について紹介します。(主催: NPO法人世界連邦21世紀フォーラム)



- 日時: 7月4日(土) 14:00~16:30(13:30より受付)
- 会場: 4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員: 60名 ■ 参加費: 3000円

〈次回予告〉8月23日(日) 14:00~16:30 ピースピレッジ第34回 「プロセスワークは、世界を、人を変容させていく! ~変化の鍵は、結果ではなくプロセスにある~」

7/8 菅谷明子講演会 米国メディア激変に見る社会に不可欠な情報とは

講師: 菅谷 明子(在米ジャーナリスト)

ソーシャルメディアで大きく変化する米国メディアの「今」をご報告いただきます。情報の価値、報道のあり方や必要性、報道組織、ジャーナリズムの人材育成、そしてメディアリテラシーの高い市民をどう育てるかを眺め、日本のメディア、市民そして図書館は何かできるかを考えます。



- 日時: 7月8日(水) 19:00~21:00(18:30より受付)
 - 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 - 定員: 200名
 - 参加費: 1000円(学生無料)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

7/22 図書館建築を読む 第2回「資本主義と図書館」

講師: 桂 英史(東京藝術大学大学院教授)

宗教改革は本(聖書)の絶対性(単一性)を解体し、本は豊かさを運ぶメディアとなりました。出版は人々の精神生活を大きく変え、さらに資本主義を導きました。「図書館建築を読む」(全4回講座)の第2回では、印刷革命の側面から図書館について見ていきます。(協力: 河出書房新社)



- 日時: 7月22日(水) 19:00~21:00(18:30より受付)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 200名 ■ 参加費: 1000円

〈第3回予告〉

9月30日(水)「知の要塞化というモダニズム」(7月22日申込受付開始)

7/22 他者を動かすコミュニケーションのあり方

講師: 河村 亨(株式会社富士ゼロックス総合教育研究所シニアコンサルタント)

一般的に組織の戦略や方針は、「理解」「納得」「実行」「定着」という段階を経てその実行度を高めていきますが、多くの場合「正しい理解、すらできていません。そこで、営業部門の事例を題材に(部下や他部門など)他者を動かすためのコミュニケーションのあり方をこれまでにない視点で解き明かします。



- 日時: 7月22日(水) 19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場: 4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員: 60名
- 参加費: 1000円

7/24 星をたのしむ・夏 ~星の祭り

講師: 皆川 敏春(星のソムリエ®みたか)

福原 菜穂子(星のソムリエ®みたか)

日本人が一年のうちで最も星空との繋がりを意識する、七夕とお月見。古くから七夕やお月見がどのように私たちの生活に関わって来たのか、それらの星ぼしはどのようなエピソードを持っているのか、星のソムリエ® と「星の祭り」を楽しむ夕べ。講座当日や、夏に出会える星空とあわせて紹介します。



『夜想曲』 皆川 敏春氏 撮影

- 日時: 7月24日(金) 19:00~21:00(18:30より受付)
- 会場: 4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員: 60名
- 参加費: 1000円

7/29 逆境で学ぶ(全3回) 第3回 美しい『体操ニッポン』の源流

講師: 富田 洋之(アテネ五輪体操金メダリスト) 吉井 妙子(ジャーナリスト)

トップアスリートの人生観から学ぶ全3回講座。第3回は現在の新生体操ニッポンのきっかけになった人物であり、徹底して「美しさ」を求めていたアテネオリンピック金メダリスト富田洋之氏のお話を、ジャーナリスト吉井妙子氏との対談形式で伺います。(主催: 上廣倫理財団)



富田 洋之

- 日時: 7月29日(水) 18:30~20:00(18:00より受付)
 - 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 - 定員: 200名
 - 参加費: 500円(千代田区民及び学生は無料)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

8/3 HIBIYAイノベーション・キャンパス2015 「大人がますます育つ イノベーションを生む考え方」

講師: 田子 學(MTDO inc.代表取締役 アートディレクター/デザイナー)

社会を変えるほどのアイデアは、日常や自分の中に眠っています。モノの見方と考え方を身につければ、まだ見たことも聞いたこともない新しい価値を創造できます。新規事業の担当者、スタートアップを目指す方や、社内でもっと活躍したいと考える方に最適な講座です。(協力: 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属SDM研究所イノベティブデザインセンター)



- 日時: 8月3日(月) 19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 200名 ■ 参加費: 1000円

8/4 江戸歴史講座 第33回 笑いと親しみの化け物像 ~江戸のコミック、黄表紙の中の化け物たち

講師: アダム・カバット(武蔵大学人文学部日本・東アジア文化学科教授)

江戸時代の娯楽本で庶民に愛された黄表紙にはどこかかわいらしい化け物たちが登場する。おどろおどろしい妖怪像とは対極の化け物たちが生まれ、生き生きと過ごした江戸とはどんな時代だったのか。黄表紙に描かれた化け物像から江戸の姿を探ります。



豆腐小僧『天怪着到帳』 国立国会図書館蔵

- 日時: 8月4日(火) 19:00~20:30(18:30より受付)
 - 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 - 定員: 200名
 - 参加費: 1000円(千代田区民500円)
- ※講演は日本語で行います。

8/5 フォトグラファーが捉えた祭典への軌跡 —2020東京オリンピック・パラリンピック招致活動を経て

講師: 竹見 脩吾(2020東京オリンピック・パラリンピック元招致委員会フォトグラファー)

東京オリンピック・パラリンピック招致委員会オフィシャルカメラマンとして二年間招致委員会に同行し、活動の軌跡を記録し続けた講師が、招致委員会での仕事や2020年に向けての思い、カメラを通して見るスポーツの魅力などについて写真と共に語ります。



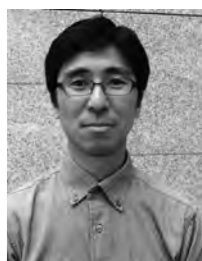
竹見 脩吾氏 撮影

- 日時: 8月5日(水) 19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場: 4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員: 60名
- 参加費: 1000円

8/28 「言葉」と向き合う —『広辞苑』づくりから考える言葉の自分らしい使い方—

講師: 平木 靖成(岩波書店 辞典編集部副部長)

辞典づくりのプロは、日頃から言葉をどう捉えているのか。今年刊行60年を迎えた『広辞苑』はどのように作られ、日本語の変遷をどう見守ってきたのか。小説『舟を編む』制作時に取材を受けた辞典編集者が、編集者ならではの言葉とのつきあいを語ります。



- 日時: 8月28日(金) 19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 200名 ■ 参加費: 1000円

古文書塾てらこや 7月期特別講座開講

日比谷カレッジ「古文書塾てらこや」の多彩な講師陣による特別講座を開講いたします。江戸時代を中心とした資・史料、伝書、手紙などを用いながら、具体的に歴史の真実に迫ります。各講座とも3ヶ月で全5回の講座を実施します。



- 日時: 7月7日(火) ~ 全8講座 順次開講
 - 会場: 4階 セミナールーム
 - 定員: 各23名(申込順)
 - 問合せ: 電話(03-3502-3340) 古文書塾担当
 - 参加費: 各講座共13,650円+資料代500円(5回分)
- ※【翻字者育成講座】には別途テキスト代1,944円が必要です。

	講座名	曜日・時間	開講日
	大久保利通の手紙を読む(全5回)	(火) 19:00~	7/7
	浮世絵を読む(全5回) 定員のため受付終了	(木) 10:10~	7/15
	くずし字で読み解く 定員のため受付終了	(木) 13:30~	7/9
特別講座 90分	江戸を楽しむ—続・江戸の寺社あれこれ(全5回)	(木) 18:30~	7/9
	青木昆陽に江戸を読む —蘭学者の東西ネットワーク(全5回)	(金) 13:30~	7/10
	絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎 (入門編)(全5回)	(土) 10:30~	7/11
	幕臣成島柳北の日記を読む —若き儒臣からみる幕末事情 その二(全5回)	(土) 14:00~	7/18
	【翻字者育成講座※】ハーバード大学美術館蔵『源氏物語 蜻蛉』を読む(全5回)	(木) 18:30~	7/16

特別研究室 ミニ通信

■ 特別研究室企画展示

内田嘉吉文庫に見る 日本人移民の歴史 ~ハワイ移民130年の節目に考える海外移民政策~



日系移民の花祭り 『National Geographic Magazine』1924年2月号

▶ 7月21日(火)~9月27日(日)

今年はハワイ官約移民130年という節目の年にあたります。そこで特別研究室では、内田嘉吉文庫にある海外移民に関する資料を展示して、明治~戦前にかけて政官財界で論じられた日本人の海外移民政策の歴史を紹介します。また、この企画では、現在の移民受入問題について関心を持つ方のために、千代田区立図書館で所蔵する現代の移民関連図書もあわせて展示します。

ポモー又広報室より

初夏の夜空に1年に一度だけめぐり合う2つの星の物語から「七夕」は始まったといわれます。奈良時代に日本へと伝わった七夕は、江戸時代には織女(姫)にちなみ裁縫などの手習い事の願掛けとして一般庶民にも広がりました。今年も日比谷図書文化館では1階ホールにて七夕の笹を飾り短冊をご用意しています。 ~7月7日(火)まで